

世界のソーシャル・ビジネス

欧州編
ドイツ「ゴミを発生させない」
「量り売り」店舗

世界の海洋の表面には、25万トン(※)ものプラスチック廃棄物が浮遊していると言われる。その多くを占めるのが、プラスチックの手提げ袋やパック包装だ。食品の個別包装を止め、量り売りにすれば、それを少しでも減らすことができる。ドイツ北部のキール市にある「ウンフェアパケット」(Unverpackt)は、そんな「バルク・シヨッピング」を導入した食料品店だ。



「ウンフェアパケット」の店内。バルク・ビンに納められた食品の色が美しい
(写真: Berit Ladewig)

店名は「ばり」、「包装しない」の意味。「バルク、サステイナブル、良質」をスローガンに、国内初のバルク・シヨップとして2014年2月に開店した。

店主のマリー・デラペリエールさんは、3人の子をもつ母親。主婦としての経験から、買い物の際にプラスチック包装やビニール袋がたまるだけでなく、「お徳用パック」を買うと食べ残しが出やすいことにも気付いていた。

「量り売りなら、プラスチック廃棄物と食料廃棄物の両方を減らせる」と思い立ち、大手企業のプロジェクトマネジャーの職を辞めて起業した。

食品・日用品が400品目

買物の仕組みはいたって簡単だ。来店する人は、買物カゴや手提げ袋に加え、個別の食品を持ち帰るためのプラスチック容器を何個も持参する。入店時に容器をレジで計量し、重量を記録したシールを容器に貼り付ける。店内の食品は品目ごとに「バルク・ビン」と呼ばれるディスプレイ

サーや、ガラス容器などに収められており、買物客はここから必要量だけを持参した容器に自分で詰める。

レジでは先のシールをもとに、容器の重さを自動的に差し引いて精算する。扱いは生鮮野菜、卵、パン、乾物などのほか、ワインやオリブオイルなどの流体、チョコレートやグミなどのお菓子、洗剤やシャンプーなどの日用品まで400品目以上。

「国内初のバルク・シヨップを旗揚げしたことで、大海に一石を投じたと感じています。自分の店だけでなく、バルク・シヨッピングというテーマが社会的に大きな反響を呼んだことがうれしい」とデラペリエールさん。

当初は情報を集めながら手探りでビジネスプランを練ったが、開店から1年半後の今、運営もようやく軌道に乗った。初年度の売上高は約10万円(約1300万円)。毎日50人が来店し、3人の従業員がフルタイムで働く。カフェも併設され、商店というよりコ



店主のマリー・デラペリエールさん
(写真: Berit Ladewig)

ミュンヘン市の雰囲気だ。デラペリエールさんは店の運営のほか、自分の経験を生かして講演やコンサルティンクも行っている。

年に数回開く2日間のワークショップは、仕入れ、関連法規への対応、物流、IT面など店舗運営のノウハウを伝えるもので、毎回定員いっぱいの人気だ。今後は大学や官公庁と共同でプロジェクトを企画し、食品業界や包装業界にも働きかけて、コンセプトを充実させていきたいと話している。

ゴミや不要物を再利用する「リサイクルリング」ではなく、「リサイクリング」ではなく、「ゴミそのものを発生させない「プリサイクリング」が、この店で確かに実践されている。(デュッセルドルフ 田中 聖香)